

[7] 小林市小体連

I 年間事業

回	期 日	時 間	会 名	内 容	会 場
1	文書協議		理事会	本年度役員選出・事業計画	
2	6月22日(火)	15:30~16:30	理事会	陸上大会計画案検討 研究の方向性について	野尻小
3	8月27日(金)	15:00~16:30	理事会	陸上大会について 研究について	Zoomによる ビデオ会議
4	10月20日(水)	13:30~16:30	理事会	陸上大会前日準備	南小 運動公園
5	10月21日(木)	8:30~16:30	大会	小体連陸上大会・片付け	運動公園
6	12月6日(月)	15:00~16:30	理事会	陸上大会記録整理 研究報告	南小
7	2月18日(金)	15:00~16:30	理事会	年間反省・次年度に向けて	南小

※ 第4・5回については、陸上大会の中止に伴い中止とした。

尚、陸上大会が開催できない代わりに、各学校で記録を測定し、市小体連陸上大会の規定（個人種目8位まで、リレー3位まで）に準じて、表彰を行った。

II 事業部のあゆみ

1 陸上大会

- (1) 大会名 令和3年度小林市小学校体育連盟第62回陸上大会
- (2) 実施日 令和3年10月4日(月)から10月29日(金)の期間
- (3) 会 場 小林市内の各小学校
- (4) 出場者 小林市内小学校(12校) 6年生
- (5) 実施種目 100m走、50mハードル走
長距離走(男子1000m・女子800m)
ソフトボール投げ、走り幅跳び、学校対抗リレー
- (6) 競技方法
- ・ 競技は全てタイムレースとする。
 - ・ 選抜種目については、一人一種目までとする。ただし、800m、1000m、学校対抗リレーは除く。小規模校については配慮をする。
 - ・ その他細部については、小林市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 表 彰 各個人種目・リレー種目共に8位までを入賞とする。
一般種目1位の児童に記録証を渡す(標準記録突破者については別途)。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科学習の在り方

～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 主題設定の理由

近年、知識・情報・技術をめぐる変化がめまぐるしくなっている。社会では「予測不可能な時代」と称されるほど、情報化やグローバル化といった社会的変化が大きく進展してきている。平成29年度告示の新学習指導要領において、これからの時代に求められる指導の目標や内容等は次のとおりである。①生きて働く「知識及び技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養の三つである。さらに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。

そこで、小林地区では本研究を行うにあたり、三つの視点を立て研究を進めてきた。

体育科学習において生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を育てていくことは重要な課題である。また、運動やスポーツをその価値や特性に着目し、様々な視点をもちながら、主体的に取り組む態度を育成することができるよう本主題を設定した。

3 研究の目標

児童の運動に親しむ資質や能力を育成するために、表現力等が高めることができる学習過程を工夫したり、体力向上を図るための活動の工夫をしながら各領域において主体的・対話的な学びを意識した体育科学習指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

学習過程の工夫をしながら、各領域において主体的・対話的な学びを意識した学習活動を展開することで、児童が自ら運動の行い方や練習の仕方を考え実践し、運動に親しむ資質や能力の基礎を養い、表現力等が高めることができるであろう。

5 研究の内容

市内各小学校において学習過程や表現力等が高める工夫をしながら、主体的・対話的な学びを意識した学習活動の実践を行う。

6 研究の実際

(1) 運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫

学習過程の工夫においては、導入段階において ICT 機器を活用して、児童に具体的な動きを確認させたり、ポイントを絞って指導をしたりすることで、目標となる動きに近づくようにするための工夫が挙げられた。また、児童が繰り返し練習を行うことができるようにドリル練習を取り入れたり、競技のルールや練習の場の工夫を行ったりする取組みもみられた。



【ICT機器の活用の様子】

- 【各学校での実践例】
- ドリルゲームの設定
 - ルールの工夫
 - 視点の共有
 - ゴールイメージの明確化
 - 動きのポイントの焦点化
 - 個に応じた指導の充実
 - 教具・教材の工夫
 - ICTの活用（動画視聴、動画撮影機能、情報共有）
 - 単元の見通しをもたせる
 - スモールステップ等を取り入れた練習の場の設定



【スモールステップを取り入れた練習の様子】

- 中学校体育教諭への授業依頼 ○ 2学年合同体育
- (2) 表現力等が高めることができる学習指導過程の工夫
表現力等が高めることができる学習指導過程の工夫については、ICT機器を活用した実践が多く、児童相互で撮影し合った動画を基に、動きのポイントを確認したり、教え合ったりする活動が多くみられた。
さらに導入段階で主運動に繋がる準備運動を行うことで児童同士が積極的にアドバイスをする姿がみられるようになった。
以上のことから、児童同士の対話や発表場面が増え、児童の表現力が高まったと考えられる。



【タブレットを見て話し合う児童の様子】

- 【各学校での実践例】**
- ペア・グループ活動 ○ ワークシート
 - 発表の場の設定 ○ 作戦や振り返りの時間の設定
 - ICTの活用（動画視聴・撮影比較→意見交換、作戦タイム）
 - 準備運動の工夫

- (3) 体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動の在り方
授業前の準備運動として、ストレッチ運動やサーキットトレーニングを行っている例が多かった。また、持久走や縄跳び月間を設けてその後大会を設定し、体力の向上を図ったり、体力テストの結果を受けて、落ち込んでいる種目の強化を行ったりする取組もあった。その他、体育振興指導教員を活用するという取組もあった。

- 【各学校での実践例】**
- 主運動につながる準備運動 ○ 体力向上強化月間の設定
 - 体育振興指導教員の活用 ○ 体育の宿題
 - 体力テストの結果を受けての指導 ○ 日常的な運動の推進



【準備運動チェック表の例】

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- 単元全体や本時のゴールイメージを明確にし、ポイントを絞って指導をすることで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ICT機器を学習の中で活用することで、的確な動きを捉えたり、自分の動きを客観的に捉えたりすることができるようになった。
- ドリル練習で繰り返し練習をしたり、スモールステップで指導を行ったりすることで、運動が苦手な児童でも意欲的に運動に取り組むことができ、基礎的・基本的な動きを身に付けることにも繋がったと考えられる。

(2) 課題

- ICTの活用については、児童のICT活用の技能を向上させていくことも課題として挙げられる。また、ICT機器の効果的な活用方法についても研究していく必要がある。
- 今後は、小林市全体で共通実践していくことができるように、教育課程の工夫や運動事例について小林市小体連を中心に情報を積極的に発信し、各学校で周知、実践していく必要がある。